

## 令和5年度 愛知医科大学看護学部学生生活実態調査 結果

無記名マーク方式調査

全回答数 303名(1学年 75名 2学年 88名 3学年 58名 4学年 74名 不明 8名)

### Q1 現在、住んでいるところ

自宅	<u>69.3%</u>
1人暮らし	27.9%
その他	2.8%

### Q2 予習/復習に費やす平均時間

予習時間：平均 64.8分(最頻値 60分/84名 最大値 400分/1名 最小値 0分/21名)

1学年：平均 59.6分 2学年：平均 69.6分 3学年：56.4分 4学年：71.6分

復習時間：平均 64.9分(最頻値 30分/92名 最大値 590分/1名 最小値 0分/22名)

1学年：平均 78.9分 2学年：平均 66.6分 3学年：52.6分 4学年：59.6分

### Q3 予習/復習時間の中で ICT 利用をしている時間

ICT 利用時間

平均 94.3分(最頻値 30分/53名 最大値 720分/1名 最小値 0分/14名)

1学年：平均 103.2分 2学年：平均 100分 3学年：74.5分 4学年：85.4分

### Q4 一週間のうちの朝食回数

0回	3.3%	1回	3.7%	2回	6%
3回	8%	4回	9.7%	5回	<u>69.3%</u>

### Q5 一週間のうちの外食回数

0回	20.7%	1回	<u>44.3%</u>	2回	19.3%
3回	10.7%	4回	2%	5回	3%

### Q6 一日の平均睡眠時間

5時間以下	10.2%
約6時間	<u>53.7%</u>
約7時間	22.4%
約8時間	11.4%
約9時間	2.4%
10時間以上	0%

### Q7 睡眠習慣による日常生活支障度

全く支障がない	11.3%
少し支障がある	<u>43%</u>
いくらか支障がある	25.7%
とても支障がある	15.3%
きわめて支障がある	4.7%

### Q8 一週間あたりのサークル・部活動の参加回数

1回	27.3%
2回	15.3%
3回	6%
4回	0%
5回以上	0%
入っていない	<u>51.3%</u>

### Q9 一週間あたりのサークル・部活動への参加時間

1時間未満	5%
1-2時間	19%
2-3時間	19%
3-4時間	5.3%
4時間以上	0.7%
入っていない	<u>51%</u>

### Q10 奨学金受給状況

返済が必要な奨学金を受けている	22.4%
病院等に就職した際に返済が免除される奨学金を受けている	18.2%
現在は受けていないが、今後受けようと考えている	12.4%
受けていない	<u>47.2%</u>

### Q11 奨学金受給理由

経済的負担が軽減される	24%
アルバイトが軽減される	2.3%
学費が軽減される	15.7%
皆もしくは、友人がもらっている	1%
親からもらうように言われた	10%
必要がないので貰っていない	<u>45.7%</u>
その他	1.3%

### Q12 一週間あたりのアルバイト時間

10 時間未満	23.7%
10—20 時間未満	<u>53.3%</u>
20—30 時間未満	13.3%
30 時間以上	0.3%
していない	9.3%

### Q13 現在の経済状況

とても苦しい	1.3%
苦しい	19.1%
どちらでもない	28.4%
あまり苦しくない	15.7%
苦しくない	<u>35.5%</u>

### Q14 現在の不安や悩みの有無

ある	46.5%
ない	<u>53.5%</u>

### Q15 不安の中で重要性・緊急性の高い順

	1 位	2 位	3 位
学業について	<u>51.4%</u>	18.6%	9.8%
友人などの交友関係について	7.3%	6.2%	1.2%
健康について	0.9%	4.1%	9.8%
部活動について	1.8%	2.1%	6.1%
アルバイトについて	13.8%	7.2%	8.5%
就職や将来の進路について	2.8%	<u>28.9%</u>	17.1%
異性の問題について	9.2%	3.1%	2.4%
経済的な問題について	9.2%	8.2%	8.5%
看護職への適性について	1.8%	14.4%	<u>25.6%</u>
家庭の問題について	0%	3.1%	4.9%
実習グループなどの学生関係について	0%	2.1%	2.4%
教員の対応について	1.8%	2.1%	2.4%
コロナ感染状況について	0%	0%	0%
コロナ感染状況下における大学生活について	0%	0%	1.2%
その他	0%	0%	0%

### Q16 悩みの中で重要性・緊急性の高い順

	1位	2位	3位
学業について	<u>51.8%</u>	15.3%	6.5%
友人などの交友関係について	6.0%	5.6%	6.5%
健康について	0%	4.2%	11.3%
部活動について	4.8%	1.4%	3.2%
アルバイトについて	3.6%	11.1%	9.7%
就職や将来の進路について	13.3%	<u>31.9%</u>	16.1%
異性の問題について	2.4%	4.2%	0%
経済的な問題について	4.8%	8.3%	14.5%
看護職への適性について	9.6%	11.1%	<u>21.0%</u>
家庭の問題について	2.4%	2.8%	9.7%
実習グループなどの学生関係について	0%	2.8%	0%
教員の対応について	1.2%	1.4%	1.6%
コロナ感染状況について	0%	0%	0%
コロナ感染状況下における大学生活について	0%	0%	0%
その他	0%	0%	0%

### Q17 不安や悩みの相談先

学生相談室	4.7%
アドバイザー教員	14%
アドバイザー以外の教員	0.9%
事務職員	0%
家族	30.8%
友達	<u>32.7%</u>
相談しない	16.8%

## 結果の総括

学生の居住状況については、約 7 割が自宅からとなっており昨年度と大きく変化はなく、予習・復習に費やす時間は平均 60 分程度であった。学習における ICT 利用については、低学年ほど長い時間となっており講義資料の電子化など学習スタイルの変化が明らかとなった。一週間の朝食摂取については 7 割が 5 回と回答しており外食割合の低下と相まって自宅で食事を取る機会が増えている傾向が明らかとなった。睡眠状況は、昨年度と大きく変わりなく半数が「約 6 時間」と回答しており、睡眠習慣による生活への支障については 4 割の学生が「少し支障がある」と回答していた。睡眠時間と生活への支障については昨年度と大きく変化なく継続して睡眠習慣が良好でない実態が明らかとなった。昨年度との違いとしてアルバイトやサークル・部活動への参加回数や参加時間が多くなっている傾向が認められた。コロナ感染についての悩みや不安についての回答が減少していることなどからコロナ対策が大きく変化したことで学生生活が変化してきている実態が明らかとなった。奨学金の受給については、4 割程度の学生が該当しており例年と変化は認められなかった。生活状況については昨年度よりも苦しいと回答する学生の割合は低下しておりアルバイトの回数・時間の増加など生活状況についても徐々に改善している傾向が認められた。直面している不安や悩みとしては学業が最も多く、相談先としては友達や家族となっていた。

今回の調査を通じて、昨年度と比較し、社会状況の変化に伴い課外活動が増えてきている実態やコロナ下において進んだ ICT 化によって学生の学習スタイルの変化がより進んできていることが明らかとなった。